第８回　橋本市都市計画審議会専門委員会及び

橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会　議事録(抜粋)

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名称 | 第８回　橋本市都市計画審議会専門委員会及び橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会 |
| 日　　時 | 令和4年9月30日(金)　午後1時30分～ |
| 場　　所 | 橋本市役所　3階　委員会室 |
| 出 席 者 | 委員(敬称略) | 〇橋本市都市計画審議会専門委員濱田　學昭　　寺本　伸行　平家　利也　　乾　　幸八　板橋　真弓　　杉村　春美〇橋本市都市計画マスタープラン策定検討委員会濱田　學昭　　葛原　芳秀　　西山　恵三　　池田　和夫堀川　憲一　　西井　幸男　　向井　景子　　栄迫　仁志房本　恵　　　武田　昌也　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【出席委員　15名】 |
| 公開状況 | 公開 |
| 傍 聴 者 | 0名 |
| 次　　第 | 1．開　　会2．協議事項　　 都市計画マスタープラン素案について3．閉　　会 |
| 資　　料 | ・第8回合同委員会次第・都市計画マスタープラン素案・第8回資料「橋本市のマスタープランの特質」・高校生ワークショップ概要報告書 |

**〇委員長挨拶**

　暑さが和らいできて、ようやく秋を迎えられそうです。都市計画マスタープランの策定も正念場を迎えてきております。委員の皆様のご意見が計画に大きく関わってきますので、積極的なご発言よろしくお願いします。

**〇協議事項について**

　これまでの委員会やタウンミーティングで出た意見などをもとに、事務局にて都市計画マスタープランの素案を策定し、委員の皆様に素案の内容や修正点などについて議論いただきました。

　それに先立ち、先日行われた高校生対象のワークショップへ事務局が参加してきた際の報告と、濱田委員長から資料をもとに都市計画マスタープランについての説明をいただきました。

**≪意見等≫**

高校生ワークショップの報告について

・11名の参加で、3グループに分けてのグループワークということで、一つのグループの数が少なく、意見の幅がせまくなっているのではないかと思う。やっただけのお茶を濁すような形では意味がないと思う。

・参加者の数についてもそうだが、やはり意見をもらう母数というのは大事。でないとここの委員だけで全てを決めてしまうということになってしまう。いろいろ市民が意見を伝えられるチャンネルを作って、議論する数を増やしていく必要があると思う。

　そして、そういった議論をオープンにすることで、若い人たちも関心や興味を持ってくれるきっかけになると思う。

素案について

・情報提供という形になるが、現在和歌山県内の業者さんたちがメタバースの技術を使って東京の消費者と直接やり取りしながら商品を販売するという取り組みをしている。

　地元にいながら遠くの人とやり取りをしながら商売ができる環境というのが現実に整いつつあって、働き方や考え方が本当に今変わりつつあるので、そういったことを踏まえて計画にも反映していってほしい。

・夢がないということはいつも言われることだが、その夢をどう作るのか。今商工会議所では毎年チューリップを地域の方々の協力をえながら植えている。今年は10万個。そして、それを見に多くの人が見に来てくれるようになってきている。

　こういった取り組みをもっと広めていくと、そのそばに飲み物提供するようなお店が出来たり、といった商売にもつながる。例えば近隣にはしっかりとした植物園の競合がないので、いつか和歌山県随一の植物園など作って、花と緑の橋本市として売り出していけたらといったことも考えている。やはり、人が集まるには商売ができないとだめ。そして、いろんな意味で人が集まってもらえることを考えないと交流は生まれないし人口も増えない。

・計画に関して、文章はきれいに見えるけれども、具体的なことには触れていないといったことが多い。踏み込んで書きにくいということがあることも理解できるが、とはいえあまりにもあいまいな記述が多くて結局なにをするのか見えてこない。

　具体的なイメージを持てるような書き方を意識してもらいたい。

・もらった素案について、読んでいると面白味がない。文字が多く書いてあるだけだとやはり読むにもエネルギーを使う。図や写真が入るだけでも印象が大きく変わると思うので、そういったところも考えてもらいたい。

・今回は今までと違い地域別の構想というものがない。これまでは地域別構想で具体的な地名などを記載してそこに対しての取り組みなどを書いてきていたが、今回はそれよりも一つ上の部分で交通や緑、市街地といった観点での計画となっている。その分、より読んだ人がイメージをわくように、しっかり取り組む計画を盛り込んでもらいたい。

　予算が足りないからという逃げ口上も多いが、計画として書く以上は本腰をいれて取り組む姿勢を見せてもらいたい。

・具体的なという意味では、濱田委員長の資料にあったような一案などは、見るとそのイメージが具体的に浮かんできた。もちろんこれがそのままの計画としていいと決めることができないことはわかっているが、これくらい将来の展望を楽しみにできるような計画を盛り込んでほしい。

・計画に盛り込むのは難しくても、市としてこんなことできたらいいな、という別案のようなものを添えるだけでも違うと思う。

・計画について、あとでその成果を検証できるようにすることも考えなければならない。でないと、書くだけ作っただけがまかりとおってしまう。

・(事務局)今回の計画については、ご指摘もっともな部分ももちろんあるが、今後夢をもてるまちづくりをするための下地を作るための計画、といった認識を持っている。そして、ここに書いていることはそのためにやらなければならないことに対しての取り組みを重点的に記載している。

　ただ、駅前などについても、市で持っているオープンスペースの利活用の検討であるとか、公民館の新設に伴う他の文化施設との統合であるとかといった話も個別では進んでいるので、まったく前向きな取り組みを行っていないということではない。また、今後の展望について夢を持てるようなものを別冊のような形で準備するということは検討したい。

・市の中で進んでいる話についても、部署ごとで持っている情報に差があるように思う。いろんな委員会などに呼ばれて、他と同じ話を何回もしなければならないことも多々あるので、横の情報共有をもっと密にお願いしたい。

・図書館について、個別で建築することが難しいのであれば、今検討されている市役所の庁舎の建て替えとあわせてでもよい。これから10年ほどかけて費用を積み立てていくと聞いた。その計画に合わせて図書館の整備も考えてもらうことお願いしたい。

・そもそも新市まちづくり計画で合併の際に作るといっていた図書館について、今から改めて考える、これから庁舎と一緒に10年後というのが遅い。

・10年後に庁舎を立て替えるるなどと言っているが、外から聞いている分には笑い話。民間の力を使うとうたっているのであればこういう時に使うべき。もっと早くできるはず。10年後の話をされても、実際今いる市民のうち、どれくらいがその庁舎の恩恵を受けられるのか。物価もそう。今と同じ金額で10年後も庁舎が建てられると考えない方がいい。何をやるにも遅い。もっと真剣に考えて全て取り組んでもらわなければ。

・この10年の取り組みは、やってきたことももちろんあるだろうが市民の目にわかりやすく映るものが少なかった。その分、市民としては我慢しているように感じるところも大きいと思う。そういった意味でも、きちんと自分たちのまちが前に進むんだとイメージできるものが欲しい。

・今回の素案について、今の都市計画マスタープランと内容が似通っているところが多い。社会情勢がこれだけ大きく動き、暮らし方も変化しているのだからいろいろ変わってしかるべき部分も変わっていない。この辺は全面的に見直してほしい。

・都市計画マスタープランは長期総合計画に即すものであることは確かだが、だからといってそこに縛られて変に不自由な計画になってはいけない。今回長期総合計画の内容がまず前面に出ているので、大事なのはどっちであるのか、考えて再構成してもらいたい。

・まちの課題として、人口減少と少子高齢化について挙げられているが、これは社会全体の問題としてずっとあり続けている問題であって、全ての前提となる話。

この問題があるからこそ、人がいなくなりスカスカになっていくまちを上手くやりくりしていく必要が出てきている。そのやりくりの部分を都市計画の面から書くのが都市計画マスタープランのはず。

・ビジョンに込めた想いの部分についても、もっと橋本市が今後大都市圏の衛星都市としてどんな立ち位置を目指していくのか、橋本で出来ることはどんなことがあるのかをはっきりを示せるようなことを記載してほしい。

・住宅都市といっても、これからの住宅の持つ意味は大きく変わってくる。仕事や農業なども含めた全ての機能が住宅で完結できるようになりつつある。そういった中での住宅都市の姿を考える必要がある。

・ビジョンに込めた想いの部分で、自立した都市圏を確立すると書かれているが、これは本当か。これを目指すのであれば都市機能をもっともっと市内に充実させなければならない。

→(事務局)今回自立と書いた意図は、大都市圏の機能を自分たちで持つ、ということではなく最低限生活に必要な機能を市内で完結させられる、というものであったが、誤解を招く表現であるので表記について再度検討する。

・都市の現状と課題の部分で、交通については電車のことしか書かれていないが、市内の人にとっての域内交通という面ではバスのほうが重要だと思われるので、バスのことも言及してもらいたい。

・都市の主要課題というのが、1章で出てきている都市の現状と課題からどうつながって問題となっているのか、これをどう解決する必要があって具体的な取り組みにつながるのか、初めて見た人でもわかるよう再度見直しをしてもらいたい。

・観光について滞在型観光とあえて滞在型を狙うのは意図があるのか。もっとも地域にお金を落としてもらえ安いのは宿泊旅行者であるのは間違いなく、橋本であればやはり高野山の存在を抜きに観光は語れない。高野山との連携を通じて市内にも滞在、交流してもらう手立てをしっかり考えていく必要がある。

・観光に大事なのは人の交わり、人の心だと思います。それが観光客にとってなによりの思い出となり、また訪れる動機にもなる。京都では子供でもおもてなしが出来るが、和歌山では観光タクシーの運転手ですら話もできないといわれる。

・今かつらぎ町などでも町石道の途中の茶屋でおもてなしが出来るようにと取り組みを始められているし、橋本でも取り組んでいこうという動きがある。また、農業とも関係するが、歴史ある山麓野菜を作って高野山のお寺で精進料理に使ってもらおうという取り組みもある。

・土地利用図について、市の主要となる都市拠点についても落とし込んでほしい。

次回までに今回出た意見などを踏まえ、構成や読む人に将来のまちの姿のイメージを持ってもらえるような書き込み、表現の修正を行い再度確認をいただくこととなり委員会は終了となりました。

以上